第１回千葉市新基本計画審議会第１部会　議事要旨

１　日　　時　　令和３年１１月１７日（水）１４時００分～１６時００分

２　場　　所　　オークラ千葉ホテル　３階　「ウィンザー」
千葉市中央区中央港１－１３－３

３　参 加 者　　≪委員≫１３名（五十音順）
秋元 裕子委員、浅野 幸子委員、石河 勲委員、市田 誠委員、加藤 康幸委員、
倉阪 秀史委員、近藤 利砂委員、島田 利美委員、轟 朝幸委員、中島 陽一委員、
細田 美和子委員、松永 哲也委員、渡邉 真由委員
（欠席者　秋田 典子委員、鈴木 雅之委員、髙梨 園子委員、森川 博之委員、
渡部 茂樹委員）
≪事務局≫９名
那須危機管理監、神﨑総合政策局長、稲生市民局長、松戸環境局長、竹本都市局次長、
斉藤建設局長、中村消防局長、堺総合政策部長、濤岡政策企画課長

４　議　　題
（１）副部会長の選任について
（２）第３回千葉市新基本計画審議会における意見への検討状況
（３）千葉市基本計画（原案）分野別計画について
（「環境・自然」、「安全・安心」、「都市・交通」、「地域経済」）
（４）その他

５　議事概要
（１）副部会長の選任について
部会長の指名により、副部会長に松永委員が選任された。
（２）第３回千葉市新基本計画審議会における意見への検討状況
前回意見（答申案）への検討状況について、事務局より説明を行った。
（３）千葉市基本計画（原案）分野別計画について
分野別計画（「環境・自然」、「安全・安心」）について、事務局より説明を行った。
（４）その他
今後の開催スケジュール・議事録の確定方法について、事務局より説明を行った。

６　会議経過

～以下、議事要旨～

議題（１）副部会長の選任について

部会長の指名により、副部会長に松永委員が選任された。

特に意見なし。

議題（２）第３回千葉市新基本計画審議会における意見への検討状況

（事務局）前回意見（答申案）への検討状況について、資料１・資料２をもとに、事務局より説明を行った。

＜意見交換＞

倉阪委員　参考資料１の SDGs 関連表について、気候変動に関して「環境・自然」「安全・安心」のみマルが付いていますが、これからエネルギー源を変えていくという大きな転換をしなければならず、千葉市においても産業あるいは都市構造にも密接に関わる大きな課題であるという認識を持っていただきたいと思います。

環境部局だけで脱炭素はできませんので、エネルギーを効率的に使える、廃熱も有効に使えるまちづくりを進めていく、あるいは、従来、化石燃料で供給していた産業分野のエネルギー転換を進めていかないと千葉市として大きなマイナスとなります。

産業については、主に国が知恵を絞ることかと思いますが、千葉市としても、千葉市の産業が将来にわたって継続できるように、エネルギー転換をサポートしていくことが必要になります。

従って、気候変動の目標については、「都市・交通」の政策１、「地域経済」の政策１にも密接に関わってくるという認識を持っていただきたいと思います。

浅野委員　防災全般に取り組んでいますが、特にジェンダーやマイノリティなど、多様性の観点からの防災にも取り組んでいる立場から発言させていただきます。

まず防災というのが、先ほどの SDGs における気候変動の話とも通じるのですが、あらゆる領域と関連しています。特に千葉市でも、ここ何年来、男女共同参画による防災にも取り組んでおり、また、安全安心な市民生活を守るといったときに、暴力の問題を考えればジェンダー平等などとも関係してきます。防災というのは、貧困の問題も含めて殆どの分野に横串で関わってくると認識しており、また、ジェンダー平等も、横串の流れですべての領域に関わってくると認識しています。

実際に、第２回国連防災世界会議では、災害リスク削減における防災の取組とジェンダー平等を両輪で回していかなければ持続可能な社会はできないということで、そうしたガイドラインも出ています。どうしても防災というと、ハード対策や緊急救急の話に偏りがちですが、災害時こそ、平常時の様々な不平等、色々なシステムや慣習の不具合が表に出てきて被害が拡大し、復興が遅れるという考え方を国連も持っています。それが日本では、まだ少し古い防災の感覚で政策が動いているところもあります。

特にこのジェンダー平等と防災という意味では、全国的に見ても、千葉市はかなり先駆的な取組をしていると思っていますので、もう少し踏み込んだ打ち出し方をしても良いと思います。

轟部会長　ありがとうございます。

やはりこの SDGs はすべてに関連するため、非常に難しいところです。場合によっては、二重マルやマルといったウェイト付けをすることもあり得るかなと思います。

松永副部会長　同じく参考資料１についてですが、施策と SDGs の 17 ゴールのマッピング自体は色々な自治体がやっていて、当然ながら自治体がやっている施策は必ずどこかに入ってきます。これは頭の整理という意味では良い取組だと思いますが、このままでは意味がありません。今回の審議会で話すべきことではないかもしれませんが、市として SDGs を推進する上で、この 17 のゴールを重点付けあるいは順位付けをして、どうやって進めていくのかということを考えなければいけないと思います。

堺総合政策部長　SDGs に関するご意見をいただきありがとうございます。

率直に申し上げて、我々も今回、非常に悩みながらマルを付けたところがあります。ご指摘のとおり、すべての部分に関わってくるものが多数ある中で、全部マルを付けてしまうと、その焦点がぼやけるのではないかということで、一旦このような形にさせていただきました。

本日のご指摘を踏まえ、改めてどういう見せ方をすれば、より市民と共有できるかという観点から検討して参ります。また、今後の具体的な取組についても、これを足掛かりとしながら、より具体的な施策に繋げて参りたいと考えています。

神﨑総合政策局長　重点化していく部分をしっかり考えなければいけないという貴重なご意見をいただきました。また、我々も初めてこの関連表を作成させていただきましたが、施策の連携がきちんと図られているかというチェックをするためにも有用だと思っています。ご意見を踏まえ、整理を進めて参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

議題（３）千葉市基本計画（原案）分野別計画に対する委員からのご意見

（事務局）分野別計画（「環境・自然」、「安全・安心」）について、概要資料及び資料３をもとに、事務局より説明を行った。

＜意見交換＞

【「環境・自然」について】

中島委員　まず書き方について、分野目標のところで、「必要です」といった言葉が続いていますが、少し圧迫される感じがするため、ワクワク感を創生するためには、「進めます」といった表現でも良いと思います。

次に、政策１施策１について、再生可能エネルギーの普及や広域連携による再生可能エネルギーの調達とありますが、広域でやるとそれなりにコストもかかるため、ここに地域発電が入っても良いと思います。個人的には、農業水路を利用した小規模水力発電など可能性はないかと考えています。

また、政策１施策３について、食品ロスの削減等などごみの発生抑制とありますが、幕張インターのドラッグストアでは、先月から、洗剤の容器を持ってくればグラム売りをするといった実証実験も始まっています。そもそもごみを出さない社会という取組も考えて良いと思います。

最後に、政策２施策３について、千葉市は浜辺があることが大きな魅力であるという話もありましたが、「海辺の保全」というのも書いた方が良いと思います。昨日、環境省に行った際には、いま話題になっている軽石を持ってきて粉砕し、浜辺をつくっても良いのではといった話も少ししてきました。

倉阪委員　政策１施策１について、「再生可能エネルギー・省エネルギー等の普及促進（脱炭素化投資等の促進など）」と記載されていますが、「再生可能エネルギー・省エネルギー等の脱炭素化投資の促進」と変えた方が適切かと思います。カーボンニュートラルは、ビジネスが動き、儲かるものでないと実現できないため、2050 年までに様々な投資が

行われ、建築物や耐久消費財などに省エネ型を入れていくことでゼロエネルギービル・ハウスにするということをやっていかなければなりません。そういったことを明確にすれば、それがビジネスになるため、この部分は「投資」にした方が良いと思っています。

広域連携による再生可能エネルギーの調達については、当然、水路等の再生可能エネルギーも重要ではありますが、千葉市の中だけで脱炭素化が実現可能かというと、これだけ人口の大きい都市において、いくら省エネ・再エネに努めてもなかなか難しいところがあります。それであれば、すでに横浜市は実施していますが、地方と連携して地方から調達してくるといったことも、千葉市としては考えざるを得ないと思います。そのことが記載されていると理解しておりますので、残しておく必要があると思います。

廃棄物については、私も千葉市のごみ処理基本計画の見直しの委員をしていますが、総排出量は減ってきていても焼却ごみ量が十分減らず、温室効果ガスの削減という観点からまだ課題を抱えています。千葉市のリサイクル率は、この規模の自治体では全国トップを維持していますが、まだ改善を要するところがあるということをお伝えしておきたいと思います。

轟部会長　私からも関連して、政策１施策１「気候変動への対応」という記載について、施策としては大きすぎるようにも感じますので、再生可能エネルギーや省エネルギーといった具体的なものを書き込んでも良いと思います。

市田委員　気候変動への対応については、取り組んでいかなければいけないことだと思いますが、一方で、少し不便さを提供することになるかもしれないものです。今までの便利さを追求していたところから、自分たちの地球を守ろうといったことを、市としても啓発・教育していくことが大事だと思っています。

今、出張でドイツに来ているのですが、ドイツの皆さまは地球を守ろうという意識がすごく強く、今まで車で通勤していたものを自転車に乗るなど、みんなで地球を守る・気候変動に対応しようという感覚に染まってきています。これは実際には、市民の協力を得ないと進まないと思いますので、そういった文言あるいは活動として取り入れていくと良いと思います。

松永副部会長　文言の修正のご提案についてです。

分野目標の一番最後に、「暮らしを次世代に継承する自然と調和したまちづくり」とありますが、次世代に継承するために、今ある暮らしを残すというと義務感が漂って、現役世代にとってワクワク感が足りない気がします。例えば、暮らしを享受あるいは楽しみといった言葉を追加しては如何でしょうか、

また、同じ文章中に、「身近に緑と水辺を感じ」とありますが、「緑と水辺を身近に感じ」とした方が自然かと思います。

加藤委員　政策２施策２について、事前意見の里山を入れた方が良いという意見に私も賛成ですが、今後、里山と古民家を活用していかないと人口が減っていき、千葉市の中にも限界集落のようなところが出てくると思われます。ぜひ「古民家」という言葉を入れていただければと思います。

また、施策の実施は、行政だけでできる問題ではないため、次の安全・安心にも入ってきますが、「ボランティアの活用」を入れていただくと良いと思います。

秋元委員　政策２の「魅力ある公園づくり」や「海辺・浜辺の魅力向上」と、魅力という言葉

がよく使われていますが、その中には、使いやすい・行きやすいなどたくさんの魅力があると思います。

私が千葉市で生まれ育ち、まちの風景を見る中で、緑と水辺をどれほど感じて生活してきたか思い返すと、あまり感じてこなかった自分がいます。以前、幕張海浜公園に姪を連れて遊びに行ったときに、砂場をいじり、手を洗って帰ろうとしたら、水道の蛇口の上が取られており、水が出せず困ったことがありました。色々な方にその話をすると、市は使ってもらいたくないのではといったことが市民同士で会話されており、目標としていることと実施していることが矛盾していると感じていました。

そのため、こうした基本方針をもとに、市民と一緒に何かをしていくというときは、市民が本当に便利で楽しいと感じられる形になると良いと思っています。市民がこの計画を読んだときに、生活の中で公園を楽しんでいるイメージをしてワクワクできるような言葉が、この「魅力ある」の中にもう少し具体的に入ると良いと感じました。

石河委員　最初の方にも意見がありましたが、分野目標に「気候変動に対応し」と掲げている中で、政策を飛び越えて施策に「気候変動への対応」と記載されていることに違和感があります。再生可能エネルギー等の普及促進を施策にするのであれば、今後１０年間でどこまでできるか見えないものに関して記載してよいのか、それとも、必ず１０年以内にできることを記載するのかといった問題もあります。

例えば、「環境負荷に配慮したごみの削減と適正処理」に関しては、我々も食品フードロスに相当力を入れて企業とともに取り組んでいます。食べ物については、環境負荷も含めて、消費せずに処分される量がすさまじいものとなっており、政策１施策３にもう少しブラッシュアップして書いた方がより通じやすいと思っています。

また、政策１施策１の「気候変動への対応」は、分野目標にも掲げており、同じことを書いていることにも違和感を持ちました。

浅野委員　政策２施策１について、先ほど「魅力ある」とはどういう魅力なのかといった話がありましたが、公園などの様々な施設については、多様な人がアクセスしやすく安心して利用できるということが大前提だと思っています。

例えば、欧米では、ゆっくりくつろぐ公園とスポーツなど遊べる公園を分けていたりする。足立区では、子どもが騒いでも文句を言われないような公園とゆっくりくつろげる公園を分けていこうといった試みもあります。また、障害のある方などアクセシビリティにハードルを持っている方でも使いやすいようにする、女性や子どもでも犯罪等を気にせず安心して過ごせる場所にするというように、もう少し具体的に暮らし目線やひとの目線で魅力の中身を記載しないと、抽象的になってしまい革新的な政策にも繋がらないと思いました。

また、他の部分でもこの分野目標の中でも、もう少し災害と結び付けられるところがあると思います。緑と水辺の活用と充実も、平常時と災害時と両方意識して政策を考えていくことも必要かと思います。

細田委員　最近人口の増加率が高い市の方に話を聞きますと、そのポイントは緑だと伺いました。また、非常に考えられたデザイン性と共に、千葉の資源・木を活用して緑をつくられており大変感心しました。

そういう意味で、政策２施策２の「まちなかの再開発等にあわせた質の高い緑の空間の創出」について、「質の高い」がより具体的に分かると良いと思います。これからの人口減少を前提にするのではなく、多くの人・子育て世代の人に住んでもらうため

にも、緑をどのようにつくっていくかが非常に大切だと思いますので、この「質の高い」をもう少し具体的に書いた方が良いと感じました。

堺総合政策部長　我々も走りながらこの計画を全庁的にまとめているところであり、先ほどの気候変動に関する分野目標とのバランスなど、気づかない点について、貴重なご指摘をいただいたと思っています。

また、現行の計画が「ですます」調の文章でかなりボリュームがあることもあり、今回はできるだけ端的な表現を採用するというコンセプトのもと、つくってきた結果、「質の高い」や「魅力ある」をはじめ、削ぎ落した表現となり、抽象度が上がってきていると感じました。

頂いた意見を踏まえ、どういう書き方ができるか考えて参ります。

松戸環境局長　現在、環境局でも、市の基本計画に基づく環境基本計画、廃棄物の計画等をつくっています。本日のご意見については、我々の取組の中にも活かしていきたいと思います。

竹本都市局次長　都市局においても、基本計画と合わせて、緑と水辺のまちづくりプランという公園に関わる計画を作成しています。その中では、これからインクルーシブということが大切になっていくため、そういった視点を持って計画を策定していきたいと考え、検討しているところです。基本計画においても、我々としての考えを盛り込んでいただけるよう、また擦り合わせしていきたいと思います。

【「安全・安心」について】

松永副部会長　政策２施策２について、２点申し上げます。

一つ目は、市の対応として、電力の強靭化ができるのかという点です。基本的には東京電力パワーグリッドが実施することであるため、市として分散型の電力を強靭化するということであれば、もう少し具体的に書いた方が良いと思います。

二つ目は、電力・通信の強靭化、一元的な防災体制の整備というのは、恐らく２年前の台風１０号の広大な被害を踏まえてのことかと思います。あの時は、千葉市としては適切な対応をされたと思いますが、県では情報収集と情報発信が適切ではなかったということで大きな批判を浴びました。その後の検証委員会の報告書を読みましたが、県の南部・東部で起きていたことが把握できておらず情報収集が遅れたこと、外国人を含めて適切な情報発信ができなかったことの反省点が書かれておりました。そこで、千葉市としても、ここに「情報収集・発信力の強化」という文言を入れた方が良いと思います。

また、政策４施策２について、「ユニバーサルデザイン化した道路整備」と「交通安全教育の推進」とありますが、先日起きた八街市での事故を踏まえ、千葉市では実際に通学路の点検を始めていると伺っています。そこで、千葉市の姿勢を示すうえでも、「通学路の点検と整備」という文言を入れた方が良いと思います。

堺総合政策部長　電力・通信の強靭化について補足します。ご指摘のとおり、先般の台風被害等を踏まえたもので、千葉市では災害の政策パッケージをつくっています。

この中では、例えば公民館・学校などの避難所において、住民の方々が避難したところで電気が使えないといった状況が起こったため、太陽光発電・蓄電池の整備を現在進めています。また、電気自動車が電気を運ぶという機能を持っているため、市民も含め、電力を融通し合い・ネットワークをつくっていく、また、東京電力の電柱に何かあった際には道路啓開などに合わせ、復旧の迅速化を進めるといった取組となっ

ています。

轟部会長　広域というよりは、分散やバックアップが中心ということですが、それにはやはりネットワーク的なことが必要であり、先ほどの環境分野における再生可能エネルギーとも関連する項目です。

ソーラーパネルがあれば、災害時でも使えるということになりますので、目標を達成するために、同時に進めていける施策もあると思いました。

中島委員　分野目標において「様々なリスク」とありますが、金融関係出身者としてはリスクとは良い方にも悪い方にも使います。通常、日本では危険性としかとらえないため、このままでも良いですが、少し気になりました。

また、「災害などが発生した場合に、被害を最小限に抑え、速やかに復旧・復興」とありますが、恐らく地震や台風などの一過性の災害を想定しているものと思います。災害によっては、復旧・復興ではなく、別の対策をとる必要があるものもあり、例えば、桜島ではいつも噴火しているため、それを復旧しようと思ってもできないところがあるため、そういった一過性ではない災害もあり得ると思っています。

次に、「自助・共助・公助」という記載について、段階的適応のように受け取られて炎上してしまった事例もあるため、「自助・共助・公助一体による防災力の向上」など一言加えていただけると内容が明確になると思います。

最後に、政策４施策２に入るかは分かりませんが、従来のバス・車に加えて、自転車の推進やウォーカブルシティなど色々な移動手段が入ってきているため、それを融合したまちづくりや、移動に適切な交通安全は何かということを検討しても良いと思います。パリのように３０キロ制限にするのかなど、色々な方向性があると思いますが、交通安全に関してはもう少し踏み込んだ書き方もあるかと思います。

轟部会長　災害とうまく付き合いながらという点では、減災という言葉を使っても良いかもしれません。また、復興の過程でも、復興まちづくりのような考え方が見えても良いと思います。

市田委員　政策３施策２について、「ICT の活用」とありますが、どのようなものを導入するとどうなるかといった具体的な表現を入れないと、ぼんやりしてしまう感じがします。

また、政策４についても、「テクノロジーを活用」「テクノロジーの進展に伴う」とありますが、例えば防犯カメラを増やすなど具体的な表現を入れていただいた方が伝わりやすいと思います。

警察に連絡しても忙しくてなかなか来てもらえないといった、忙しそうという感覚があるため、そういうところを改善していくためにも、テクノロジーに関して、一文でも追加していただきたいと思います。

浅野委員　まず前提として、この部会でどの水準で議論するかということが挙げられます。SDGｓには、１７の世界的目標と、その下に１６９の達成基準、更には２３２の指標があります。当然、市の基本計画のため、ある程度の大目標と、その具体的な施策、その施策推進に当たる指標が必要であると思います。それが揃ってこその総合計画だと思いますので、「まちづくりの総合８分野」の内容がどの水準のものを指して書かれているのかが分からないところがあり、次回までに整理していただく必要があると思っています。その中で、何でも網羅的に書けば良いものでもなく、職員・市民・企業も含めて色々な主体が、目指すべきまちの姿や取り組むべき政策の領域が見える必要があると思います。そのため、抽象度がある程度高くなっても仕方のない文章も必要

ですし、より踏み込んだ具体的な施策や取組の中身・指標といったものも合わせて整理する必要があると思います。

そのことを前提としつつ、先ほど貴重な意見が出ていたと思いますが、防災に関しては、よく自助・共助・公助と言われていますが、なぜか、まず市民頑張ってという自助のところが前面に出てきます。これは色々な誤解があり、市民の自助努力だけではどうにもならないから大災害になるわけです。市民や色々な主体の自助を促すことにも行政の責任があり、決まりきったように自助・共助・公助と並べて、その政策の先に市民の防災意識と地域防災力向上を出すようなやり方はやめた方が良いと思っています。行政の基本計画のため、どのように災害対応力を強化していくのかという全体の方針があり、その中で市民の防災意識向上などの取組の推進をどのように側面支援していくかが後に来るべきではないかと思います。

その上で、特に行政内部の連携については、もう一歩具体的に踏み込まないと何も改善しないという感じがしています。災害時には、組織横断的に連携しないとどうしようもない問題が山ほど出てきます。ところが、内部連携できていない行政の縦割りの状況のため、民間の市民グループや企業など地域組織の中も縦割りになる傾向があり、総合的なまちづくりの体制を目指さなければ、実は防災力も向上しないと思っています。そういう意味で、政策２施策２「災害対応体制の強化」を施策１に持ってきて、その中でも「分野を横断した一元的な防災体制の整備」がトップに来なければならないと思います。その次の施策に、内部の連携も含め、官民連携が平常時からできていないとうまくいかないため、「多様な主体との連携による、広域的な災害対応体制の強化」が来ることで、大きな二つの柱になると思います。

最後に、政策４施策１について、DV 虐待の問題が入るべきではないでしょうか。これは完全に犯罪であり、人権の視点が欠けると、防犯対策の効果が上がらないと思います。人権の観点を入れた教育・啓発、暴力防止の啓発を入れ込んでいただきたいと思います。

轟部会長　先ほどありました本計画の位置付けについては、確認しておいたほうが良いと思います。前回の計画を見ると、かなり具体的に地名や施策も入っていますが、この水準まで落とし込むのかというところも含めて確認させてください。

堺総合政策部長　先ほどの大目標から具体的な指標までというご指摘についてですが、千葉市の総合計画における基本構想のもと、今ご審議いただいている基本計画１０年間のものがあり、さらにこの基本計画に基づいて、３年間の実施計画というものを策定しています。その実施計画の中には、この基本計画の記述を踏まえ、具体的な事業について、市の財政フレーム等を見ながら、３年間でどこまでやれるかという事業量を明記して記載しています。また、それと連動する形で具体的な客観的な指標を設定しています。

例えば、保育所の整備であれば、何ヶ所整備していくという事業量に対して、待機児童数は目標ゼロ人であるといった、事業に関連する指標をつくっています。

そのため、この基本計画そのものに記載はありませんが、今後３年に区切った中で、具体的なものに落とし込んでいきます。

また、政策評価という言い方をしていますが、客観指標の状況・事業の進捗状況に加え、市民にアンケートをとり、生活の中でどういう実感を持っているかを把握し、その関連性の分析・考察等を行っているという状況です。

轟部会長　この基本計画の下に、詳細な施策に結びつく計画が絡んでくるということが分かり

ました。そういう意味では、そこも見据えながら、イメージができるようになるべく具体的に書けるものは書いた方が良いと感じました。

その他、貴重なご意見をいただきました。

災害のことは、私も交通分野で扱っていますが、ご指摘のとおり、その対応体制を横断的に、組織内だけではなく組織を超えて整備することが非常に重要であると思っています。取組の順番もご指摘いただきましたが、優先順位をどこに置くか、またこの記載順がそういう意味を含むのかということも含めて検討いただきたいと思います。

倉阪委員　用語について、バイスタンダーなど私も知らない用語を調べてみたのですが、ネットに書いてある用語をそのまま入れてあることが気になりました。ユニバーサルデザインや SNS なども、ネットの文章がそのまま入れてあるため、出典を明らかにして書かなければいけないと思いましたので、点検していただければと思います。

秋元委員　出典に関連してですが、政策４施策２の「MaaS」についても、市民に分かりやすく説明したほうが良いのではないでしょうか。

また、政策４施策３の「消費者教育の推進」についても、カスタマーハラスメントというように勝手に想像したのですが、言葉だけでは全く理解できないため、これがどういう教育なのか、それを教育することで、どういった消費生活の安定が向上できるのか教えていただけると良いと思います。

轟部会長　関連していうと、なぜここに MaaS があるのか、放置自転車もどのように安全・安心に関わるのか若干分からないところがあります。MaaS は移動のサービスを具体的にやっていくものですが、これによって、公共交通などを利用してもらい車を減らしていくということが、何か遠いように感じていました。

また、消費者教育についても、市民の方々に分かるように、注釈を入れていくことが重要と思います。

渡邉委員　政策２施策１における主な取組みにおいて、積極的な情報の発信についても言及しては如何でしょうか。先月大きな地震もあり、私自身も防災意識が高まっていますが、どこから正確な情報を入手したらよいか分からないということがあります。正しい情報が欲しいという思いは、恐らく私以外の市民の方も持っていると思いますので、例えば SNS や Youtube など、市民に届く情報発信を行っていただけると良いと思います。

浅野委員　先ほどの記述の水準についてですが、実施計画が豊かなものとなるように、また、同じような議論を繰り返さないためにも、この部会において、ここまで書き込むべきという意見が出たものについては、書き方・読みやすさは工夫しつつも細かく残していただく前提で議論したほうが良いと思います。

次に、政策１施策２の「住宅の耐震改修助成」にプラスして、ブロック塀の改修や簡易耐震診断のサポートなども記載すると良いと思います。また、BCP、事業継続計画についても、千葉市として、策定の推進を企業に働きかけることは十分できると思います。その策定プロセスの中で、行政と地域との連携を入れ込むこと、コロナも含め、どのように災害にしなやかに対応・復旧するかということを千葉市らしく一緒に議論しながら、BCP 策定を促していくことが非常に有効ではないかと思います。

最後に、復旧・復興については、創造的復興という言葉も使われており、ただ復旧するのではなく、同じ被害を繰り返さない、また、新たな状況に対応できる復興のあ

り方を進めていく議論もあるため、参考にしていただければと思います。

轟部会長　まちづくりの観点から、復旧だけではなく、リニューアルする機会ですので、より良いものへ、質の高いものへという復興はあり得ると思いました。

BCP に関しては、千葉市も BCP を持っていると思いますので、市のレベルのもの、企業のレベルのものそれぞれがうまくリンクすることが必要だと思います。

また、私から一点申し上げると、政策１について施策が二つ並んでいますが、施策１は、土砂災害・浸水対策という災害の種類が記載されており、施策２は、整備・管理というやるべきことが記載されており、表現が合っていないと感じますので、整理したほうが良いと思います。

堺総合政策部長　貴重なご意見を数多くいただきありがとうございます。

まず、自助・共助・公助と、ある意味で我々がこれまで自然な形で使ってきたものに対して見直した方が良いということは、大きな気付きであり、ありがたいと思っています。また、脚注についても、細かい点までアドバイスいただき、非常にありがたく感じています。

次に、情報発信や BCP を含め、実際に現在も取組はありますが、この計画上では見えてこないところがあるかと思います。この計画を見る市民の方が、どのような印象を持たれるかということも含め、記載のあり方を検討して参ります。

最後に、テクノロジー・ICT に関するご指摘をいただきましたが、実は我々も悩みがあり、テクノロジーが今後１０年間で一層進展していくというベクトルは認識しつつ、例えば５年後や１０年後に、具体的にどのようなテクノロジーが普及し、導入可能となっているか、正直分からないところがあります。その中で、今使えるものだけを書いてしまうと、直近の取組しか見えてこないため、あえて一般的な表現を使っているところがあります。とはいえ、何ができるのかイメージできないというご指摘と思いますので、記載の仕方について検討させていただきたいと考えています。

那須危機管理監　防災に関して様々なご意見をいただきありがとうございます。

市民の関心の高い分野でもあり、誤解が生じないような表現にしなければいけないと感じた次第です。我々としても、情報収集や情報発信は非常に重要だと思っています。災害時のクライシスコミュニケーション、平常時のリスクコミュニケーションは非常に大切だと思っており、今年の７月には、市としても組織改正を行い、危機管理部門の組織強化を図ったところです。

その一つとして、リスクコミュニケーター・クライシスコミュニケーターの役割を私が担うとともに、災害時の指揮命令系統の総括、一元化も担うので、文章中に表現できればと思います。

また、自助・共助・公助の話について、我々としても順番付けをしているわけではありませんが、一体的にという部分がうまく伝わらないところがあります。そういったことも含め、また、施策の並び順も含めて検討していきたいと思います。

稲生市民局長　色々なご意見をいただきありがとうございます。

先ほど庁内での横の連携という話がありました。総論的な言い方で恐縮ですが、それぞれの所管において、この内容をつくっている部分から、更に横の展開でどのように連携していくか、特に市民局の場合は、本日の安全・安心のうち、防犯・交通安全・消費者、他にも地域社会全般・文化・スポーツ・ジェンダーなど幅広であり、当然、他局との連携という視点をこの中に入れていかなければなりません。ただその時に、

先ほど総合政策部長から話がありましたが、１０年後という形の中で、テクノロジーはどのような状況なのか、そういったところを視野に入れつつ、一方で、読んで分かっていただかなければならないというジレンマもあると思っています。短い文章の中でも、将来を見て、そこにある程度想像ができる、更に横の繋がりなど市としてどのように進めていくか、そういうものが入れられるように議論していきたいと思います。

斉藤建設局長　インフラを整備・管理しているセクションとして、先ほどの災害発生後の復旧・復興について、同じ被害を繰り返さないことが重要という、非常に貴重なご意見を承りました。まさしくそういったことがないような形で、また、そのための備えも進めていきたいと考えております。

島田委員　政策４施策１・２について、市としてどのような施策をするのか、また、市民にどのようにしてもらいたいか具体的に示していただきたいと思います。

また、渡邉委員から話がありましたが、情報発信は非常に重要な部分となりますので、市としてどのように情報発信していくか明確にしてほしいと思います。なお、この情報発信の部分については、防災無線の効果的な活用を盛り込んでいただきたいと思います。

轟部会長　情報発信・情報収集については、デジタルツインと言われる、フィジカル的な整備と合わせて情報の整備が一体的に動いていく体制がどの分野でも起きてくると思います。決してこの分野だけではなく、すべての分野でそれが行われて、効率化が進み、効率的なより良い社会がつくられていくと思います。

石河委員　「安全・安心」の政策４つの中で、火災予防の推進にのみ高齢者という文言が出てきます。高齢者の安全・安心を謳うのであれば、道路や救急にも関連する問題ですが、そちらには文言が出てきていません。そのため、消防だけが高齢者に特化している安全・安心という捉え方をされてしまうのではないでしょうか。もし高齢者に絞った安全・安心を示すのであれば、次の「健康・福祉」分野の政策２施策２になるのではないでしょうか。千葉市の行政部局が異なるからこのような記載になったのかもしれませんが、消防のところだけに高齢者という文言が出てくることに違和感があります。

議題（４）その他

（事務局）今後の開催スケジュール・議事録の確定方法について、事務局より説明を行った。

浅野委員　提案というわけではないのですが、例えば男女共同参画基本計画では、どの省庁が担当するか、計画の横に主な担当省庁として記載されています。また、長岡市では、中越地震の経験から、防災基本計画の中に、この施策については県のどこの部門と連携する、長岡市の中ではどこの部局が担当するといったことが記載されています。先ほどの SDGs のように、逆に限定されてしまうといった問題もあるかもしれませんが、特に複数の部局に跨らなければできない施策については、そういった書き方をするのも良いのではと思い発言しました。

―閉会―